

松本清張記念館

◆館報◆
2008.12
第29号

巨大な人間劇場は日々開幕する

特別号

開館10周年から清張生誕100年へ

目次

- 生誕100年記念事業 2
- 菊池寛賞受賞 4
- 友の会活動報告 5
- 開館10周年記念 阿刀田高講演会 6
- トピックス 8



特別企画展

「一九〇九年生まれの作家たち―大岡昇平・中島敦・太宰治・埴谷雄高・松本清張」と題した企画展を開催します。

松本清張がこの世に生を享けてちょうど百年目となります。周りを見渡すと、一九〇九年生まれの偉大な作家は、松本清張だけではありません。大岡昇平、中島敦、太宰治、埴谷雄高―この活躍時期も作品の持つ色合いも違う作家を時間軸で並べ、共有した時代を見つめます。

日時 平成21年1月11日(日)～8月31日(月)

9時30分～18時(入館は17時30分まで)

場所 北九州市立松本清張記念館・企画展示室

入場料 常設展示観覧料を含む



中島 敦
「自画像」
※県立神奈川近代文学館所蔵



埴谷 雄高
「死霊」巻頭言 原稿
※豊田市立中央図書館所蔵

全国巡回展

全国五文学館で松本清張展を開催します。お近くにお住まいの方は是非足をお運びください。記念館とはひと味違った雰囲気、清張の足跡をたどってみてはいかがでしょうか。

開催日程・会場は、次のとおりです。

●**こおりやま文学の森資料館**
【日程】平成21年6月20日(土)～7月20日(月)
【会場】郡山市民文化センター展示室(福島県郡山市堤下町1-2)



●**世田谷文学館**
【日程】平成21年4月11日(土)～6月7日(日)
【会場】世田谷文学館(東京都世田谷区南烏山1-10-10)



●**高知県立文学館**
【日程】平成21年12月1日(火)～平成22年1月17日(日)
【会場】高知県立文学館(高知県高知市丸ノ内1-1-20)



●**仙台文学館**
【日程】平成21年10月1日(木)～11月23日(月)
【会場】仙台文学館(宮城県仙台市青葉区北根2-7-1)



●**姫路文学館**
【日程】平成21年7月31日(金)～9月13日(日)
【会場】姫路文学館(兵庫県姫路市山野井町84番地)



清張原作舞台劇

劇団前進座が清張原作・芥川賞受賞作の「或る『小倉日記』伝」を上演します。清張は前進座のファンで、一九六八年には大佛次郎他三名と当劇団を応援し次世代を育てる「矢の会」を発足しました。

日時 平成21年10月2日(金)～4日(日)

場所 北九州芸術劇場・中劇場



「花みづきの会」前進座劇場公演より

100年 事業





松本清張生誕100年を記念して、2009年は多くの事業が予定されています。今回はその主要なものをご紹介します。なお、詳細については決定次第、松本清張生誕100年ホームページにてお知らせいたします。

1 生誕 記念

記念講演会

直木賞作家の大沢在昌氏、宮部みゆき氏、京極夏彦氏をお招きし、トークショーを開催します。お見逃しなく。

日時 平成21年8月4日(火) 時間未定

場所 北九州芸術劇場・大ホール

講師プロフィール

●大沢 在昌(1956年生) 直木賞作家



愛知県名古屋出身のハードボイルド、冒険小説家。

79年『感傷の街角』で第1回小説推理新人賞を受賞してデビュー。『新宿鮫』で第12回吉川英治文学新人賞、第44回日本推理作家協会賞を受賞し、93年『新宿鮫無間人形』で第110回直木賞を受賞。05年日本推理作家協会理事長に就任。

●宮部 みゆき(1960年生) 直木賞作家



東京都出身でミステリー、時代小説、ファンタジー等ジャンルの壁を超えて活躍している。

法律事務所勤務などを経て、87年『我が隣人の犯罪』でオール読物推理小説新人賞を受賞してデビュー。『龍は眠る』で第45回日本推理作家協会賞を受賞し、98年『理由』で第120回直木賞を受賞。04年『宮部みゆき責任編集 松本清張傑作短篇コレクション 上・中・下』を刊行。

●京極 夏彦(1963年生) 直木賞作家



北海道出身の作家、妖怪研究家、アートディレクター。

94年『姑獲鳥の夏(うぶめのなつ)』でデビュー。96年『魍魎の匣(もうりょうのはこ)』で第49回日本推理作家協会賞を受賞し、98年に『囃し伊右衛門(わらういゑもん)』03年に『覗き小平次(のぞきこへいじ)』がそれぞれ直木賞候補となり、04年『後巷説百物語(のちのこうせつひゃくものがたり)』でついに直木賞を受賞。独自の世界観で「京極流」を確立している。

その他にも記念切手の発行、書店ブックフェア、清張作品タイトルなどを題材とした書道展、中高生読書感想文コンクール、清張ゆかりの地ツアー、浜松モザイカルチャー世界博2009で清張似顔絵を花と植物で造形、映画・テレビドラマ制作などが計画されています。

●“清張生誕100年記念事業”に関するお問合せは

松本清張生誕100年記念事業実行委員会事務局
TEL:093-582-3275 FAX:093-582-1055

●松本清張生誕100年ホームページ

清張生誕100年記念事業の情報が一目でわかるホームページを開設しました。

<http://www.seicho-100.com>

ホットな情報を随時更新中。

清張似顔絵コンクール

清張の似顔絵を募集します。皆さん奮って応募ください。生誕記念ロゴを描いたイラストレーター・山藤章二氏が審査を行います。入賞作品は、朝日新聞・週刊朝日に掲載されます。

応募締切 平成21年3月31日(火) 必着

応募方法 詳しくは松本清張生誕100年ホームページで。

清張ウォーク

全国の清張文学ゆかりの地を歩くウォーキング大会を開催します。一年を通して北は北海道から南は鹿児島まで全国二十カ所で開催されます。完歩スタンプを集めた方には記念品をさしあげます。日本ウォーキング協会共催。

お問合せ (社)日本ウォーキング協会 TEL 03-5256-7855

第56回 菊池寛賞受賞



北九州市立松本清張記念館は、第56回菊池寛賞を受賞しました。

「地方財政が厳しい折から各地の公立文学館などが苦戦するなか、水準の高い研究誌を刊行しつつ、多彩な企画展を催すなど、健闘しながら開館十周年を迎えた」とこれまでの記念館の業績が評価されたものです。

十二月五日にホテルオークラ東京で開催された贈呈式では、藤井康栄館長が次のように挨拶しました。

「設立にあたって記念館は、作家・松本清張らしく運営することにいたしました。この作家は大変勤勉で、お休みが大嫌いな方だったので、記念館も年末三日間の大掃除期間を除いて、十

年間中無休で開館しております。また、清張は『自分は努力だけはしてきた』と書き遺し、最後の最後まで知的向上心を失わないで仕事を続けました。我々も及ばずながら努力して、こういう記念館としては重荷ではありますが、新しいテーマで研究誌を発行したり、自分たちだけで企画展を続けてまいりました。今年が開館十周年、来年は松本清張生誕百年を迎え、一段と仕事が忙しくなってきたところですが、今回の受賞でまた元気を取り戻しているところでございます。

私は、昭和四五年に松本清張自身が菊池寛賞を受賞した頃を思い出します。あの時は敬愛

自身でまた元気を取り戻しているところでございます。



する菊池寛の名を冠した賞ということで作家も大変晴れ晴れとした感じでございます。その受賞理由に「『昭和史発掘』を軸とする意欲的な創作活動」とありました。そのころ私はまだ文藝春秋に在籍し、『昭和史発掘』の担当編集者でしたので、自分の仕事が客観的な評価につながったことにとってもうれしく楽しかった思い出があります。それから三十八年が経ち、こんな大きな賞に二度もかわれるとは夢にも思いませんでした。これで記念館関係者がより一層元気になって、来年の生誕百年を迎えられるばとてもうれしいと思っております。」

贈呈式は、各界名士など多数の参加で大変盛況でした。



●菊池寛賞とは

菊池寛賞は、故菊池寛が日本文化の各方面に遺した功績を記念するための賞で、昭和27年に制定されました。菊池賞が生前、特に関係の深かった文学、演劇、映画、新聞、放送、雑誌・出版、及び広く文化活動一般の分野において、その年度に最も清新かつ創造的な業績をあげた人、或いは団体を対象としております。

【松本清張の受賞】

昭和45年、『『昭和史発掘』を軸とする意欲的な創作活動』が評価され、第18回菊池寛賞を受賞。

【第56回受賞者・団体】

- 北九州市立松本清張記念館
- 宮尾登美子氏
- 安野光雅氏
- かこさとし氏
- 羽生善治氏(実父代理出席)



研究誌・企画展図録・オリジナル映像

菊池寛賞受賞理由として評価された、これまでの「研究誌」と「企画展図録」と「オリジナル映像」をご紹介します。



<研究誌>

- 創刊号(2000) 特集『清張と鷗外』
- 第2号(2001) 特集『松本清張と菊池寛』
- 第3号(2002) 特集『清張文学と旅』
- 第4号(2003) 特集『清張ミステリーの〈現在〉』
- 第5号(2004) 特集『松本清張の敗戦前後』
- 第6号(2005) 特集『清張古代史の軌跡と現在』
- 第7号(2006) 特集『歴史・時代小説の醍醐味』
- 第8号(2007) 特集『清張とメディア時代との遭遇』
- 第9号(2008) 特集『世界への視座—清張の海外取材』
- 第10号(制作中) 特集『1909年生まれ作家たち(仮)
—大岡昇平、中島敦、太宰治、埴谷雄高、松本清張』

<企画展>

- 1998.12.21～1999. 2.28 清張文学の羽搏き
- 1999. 6.19～1999. 8.31 清張と鷗外
- 1999.12.17～2000. 3.31 時間の習俗展
- 2000. 8. 1～2000.10.31 清張文学の土壌
- 2000.12.15～2001. 5.13 点と線のころ
- 2001. 8. 1～2001.10.31 風間完 挿画・原画展
- 2002. 1.12～2002. 5. 7 証言—朝日新聞社時代の松本清張
- 2002. 8. 1～2002.10.31 黒い画集・展
- 2003. 1.18～2003. 5. 6 松本清張の旅
- 2003. 8. 4～2003.10.31 松本清張と菊池寛
- 2004. 1.16～2004. 5. 5 「火の路」誕生秘話
- 2004. 8. 4～2004.11.14 松本清張の軍隊時代
- 2005. 1.15～2005. 5. 8 松本清張作品を彩る単色の世界
- 2005. 8. 1～2005.10.31 黒地の絵展
- 2006. 1.21～2006. 5. 7 松本清張文学と中近東
- 2006. 8. 1～2006.10.31 「天保図録」挿画展
- 2007. 1.18～2007. 5. 6 松本清張の印刷所時代
- 2007. 8. 1～2007.10.31 新進作家 松本清張 取材に走る
- 2008. 1.19～2008. 5.11 松本清張と松川事件
- 2008. 8. 1～2008.10.31 清張の原風景

<オリジナル映像>

- 『日本の黒い霧—遙かな照射』(80分) 上映中

友の会 活動報告

● 平成20年度 年次総会

[8月4日(月)／参加者：53名]

開館10周年記念講演会を楽しんだ後、ムーブ内にある大会議室に移動し、平成20年度年次総会を行いました。

平成19年度事業及び決算報告、平成20年度事業計画や予算案、生誕100周年記念事業についての協議をしました。記念館を支える友の会として有意義な記念事業にしようとする活発な意見が出されました。

総会終了後の懇親会も開館10周年にふさわしく華やかな会になりました。



● 作品の舞台を巡る旅

[11月7日(金)～9日(日)／参加者：11名]

今回は、人気も高くアンコールの多かった山陰地方へ。『数の風景』の舞台となった石見銀山、『砂の器』の舞台亀嵩、友の会初清張の父の故郷日南町などを巡りました。行く先々で、生前に清張と親交のあった方との素敵な出会いがあり貴重な体験をし、見事な紅葉と温泉の湯に癒された贅沢なツアーとなりました。

参加者は少なかったですが、アットホームで笑いのたえない楽しい旅でした。



友の会会員 募集!!

ただいま友の会では新規会員を募集中です。松本清張記念館友の会では清張ゆかりの地の見学や読書会・講演会等の開催、会報の発行など多彩な事業を展開しています。

会費は、8月から翌年7月までの1年間で3,000円となっております。

友の会入会のお申し込みは… TEL. 093-582-2761 松本清張記念館友の会事務局まで

開館十周年記念講演会

日時…平成二十年八月四日(月)
会場…北九州市立男女共同参画センター

「作家が見た松本清張」阿刀田 高

小説はすべてミステリー

清張作品から受けた影響は本当に計り知れない、と痛切に感じている。確かに、清張さんの描く世界は重く、暗い。比べて、私の方は明るくて、軽い。完全に正反対です。また、清張さんの特徴である社会派的な視点を、私はそんなに強く持ち合わせている方ではありません。表面的には、二人の小説の世界は全然違うと感じられるのは、ごく普通の受けとり方だと思います。でも、じっくりみると非常に似ている。

一つは、松本清張は基本的に私小説を書かなかった人です。小説家は自分の想念からものを書くのですから、小説家その人が反映されない小説などは世の中にあるはずがない。しかし、どういう形でそれを出すかで厳然たる分かれ道がある。私も意図的に私小説は書いておりません。

もう一つ。「小説はすべてミステリーである」。これは私自身が言っていることです。小説とは全部〈謎〉なのです。最初に〈謎〉が提示され、進むにつれだんだん深くなっていく。〈謎〉が少しずつ解けていって、大体の解決があつて終わる。小説はそういう形をとったとき一番面白いし、読者にとって十分に楽しめるものになる、という事です。清張さんは間違いなく「小説

はすべてミステリー」ということを心に留めていらしたと思います。

実質的なデビュー作となった「或る『小倉日記』伝」も、完全に謎解きの文学ですね。森鷗外の小倉時代の生活はどうであったかという〈謎〉を解いていく、それがテーマになっている。

アイデアストーリーの書き手

清張さんは明らかに、アイデアストーリーの書き手であったと思います。まず小説を組み立てるに相応しい何かアイデアがある。これは、私小説を書かなかったことと裏腹なのです。私も全く同じで、このアイデアを活かすにはどういう人物をつれてきたらいいか、どういう状況が必要かと考える。そうすると、人生の色んなことに通じていないといけない。アイデアを元にして小説を組み立てていく。清張作品にもそういう痕跡を汲み取ることが出来ます。

清張さんは『創作ノート』を遺していません。これも、私と全く同じですね。でも、あれだけ膨大な作品を書いた清張さんが、この程度で大丈夫なのだろうかという程度の、まばらな『創作ノート』です。でも、『創作ノート』というのは『アイデアノート』なのです。『アイデアノート』はあれでいいのです。私もそうだからよく分かる。

アイデアというのは、浮かんだ途端にもう一気に小説がすーっと浮かぶものもある。そういうときは、わざわざノートに書く必要がない。書いて残すものは使えなかったものなのです。私自身も、忘備録というのを今、第十五巻まで大学ノートに持っています。何か小説になりそうなものとはにかくメモをしておく。清張さんも同じで、小説法としても薦められている。

アイデアにはそのアイデアだけでは書けないものもある。もう一つのアイデアと組み合わせる。私の忘備録で一番古いところに書いてあるのは、ドラキュラが血液銀行に就職したらどうなるだろう、という一行です。一行でいい、自分で考えたことは後で呼び戻すことが出来るのです。だから、どんな片ペンでもとにかく書いておいた方がいい。清張さんもそう言っている。小説を書くときそれを見直してみると、結構そこから新しいアイデアが出てくる。別のアイデアとくっ付いて一つの作品になることがある。

アイデアストーリーということでは、作り上げていくプロセスは、清張さんと私は非常に似ているのです。そのあと、甘いお菓子にするか、しょっぱいおつまみにするかは、その人の持っている資質みたいなものがある。プロセスは共通でも、見かけは明るいか暗いか、笑えるとか笑えないとか、軽いか重いとか、全然違うものになってくる。

作品のヒント

清張さんはアイデアストーリーの書き手でしたので、結構色々ところからヒントを得ていると思います。これは私の発見なのですが、「霧の旗」は明らかに「眼には眼を」という、アンドレ・カイアットという監督の映画でしょう。アラブのどこかの町の病院で、イギリス人の大変な名医が院長さんをしている。これが、クルト・ユルゲンスという俳優です。非番のある日、現地のアラブ人が妻が大変な状態だから診てくれと、自動車で奥さんを家に運んでくる。休みだし設備も何もないので断ると、翌朝、その女の人は子宮外妊娠で死んでしまった。大変善良な医師なんです。この人は。ある日の往診の帰り、自動車が全部分解されてしまっている。バスは来ない。歩いて帰る途中、あの男が来て自分が案内してやろうという。妻に死なれてこの男は





阿刀田 高

昭和10年、東京生まれ。早稲田大学文学部卒。国立国会図書館勤務を経て作家に。昭和54年『来訪者』で日本推理作家協会賞、短編集『ナポレオン狂』で直木賞を受賞。平成7年『新トロイア物語』で吉川英治文学賞受賞。『松本清張あらかると』など著書多数。日本推理作家協会理事長、松本清張賞選考委員、文化庁文化審議会会長を歴任。現在、日本ペンクラブ会長。近著は、『街のアラベスク』、『やさしいダンテ<神曲>』、『阿刀田高傑作短編集（『遠い迷宮』、『黒い回廊』、『白い魔術師』）』。

死を決意して、医者をごんごんごんごん砂漠の奥へとつれていく。ふらふらになって、町が見えるはずの山のとっぺんに登ってみると、相変わらず砂漠がだっつと続いていくところまで終わる。凄まじい映画です。キネマ旬報の「あなたの一番印象に残った映画は何か」というアンケートに、清張さんは「眼には眼を」と書いています。これは「霧の旗」のヒントです。社会的に十分信用されて人の命さえ支配する職業は何かと考えて、映画の医師を変えて弁護士

とした。九州から、倍賞千恵子さんが列車に乗ってやってくる。東京の有名な人権派の弁護士に、あらぬ嫌疑でひどい目に遭っている兄さんを、どうか救ってほしいと頼む。結局、弁護士は断り、兄さんは病死してしまふ。恨みに思った倍賞千恵子が復讐する、というのが「霧の旗」です。発端は似ている。しかしそういうヒントの得たは、作家は常にやっていることだと思えます。「婦人公論」で「霧の旗」の連載が始まったのが、昭和三四年の七月。映画「眼には眼を」が日本で上映されたのが、その一年前の秋です。時期的にびたつと合うのですね。非常に感動した作品があつて、作家としてそれを換骨奪胎して自分のペースで書くことは、別に何らおかしいことではないし、名作が書かれることもいっぱいある。初期の作品に、「赤いくじ」という作品がありますよね。敗戦後の朝鮮半島に、戦勝国になったアメリカの将校がやってくる。日本の旧軍人達は、この連中のご機嫌をとるため、女を提供することにした。女はくじで選ぶことになる。幸いなことに、アメリカ将校はジェントルマンで、夕食とお酒の接待だけで、それ以上のことは何も要求しなかった。しかし、接待に出た女性たちはそれだけで、汚れた人だと仲間達の間で変な目で見られてしまふ。日頃嫉妬を買っていた大変きれいな人妻が、特にひどい目に遭うという物語です。モーパッサンの「脂肪の塊」という名作がまさにそういう状況です。普仏戦争のときバスを止めたプロイセンの将校に、「脂肪の塊」というあだ名の娼婦を人身御供



に差し出す。その結果、バスは無事に出発するが、同乗者は感謝するどころか、やっぱり汚れたやつは汚れたことをやるという顔で見るといふ小説です

よね。「赤いくじ」と非常に発想の根底では似ている。ある程度意識的な影響関係があつたのかなあと思います。ただ、あれだけ膨大な読書をする、心の中に、何から沈殿したのか分らないが、色んなものが沈殿しているんですよ。何から得たのか分らない、アイデアとして面白いなと思う、それを活かすにはどういうシチュエーションがいいかなと考えていくと、逆に今度は名作に似てくるってことも起きてくる。先行する心に残る作品、名作というのはそのアイデアを一番上手に活かしているから、名作になつていくのです。

庶民の味方

推理小説でも、殺す人には切実なその人の事情があるはずだ、と動機を深く考え、動機の解明をしつかりやれば、必ず人間や社会を書くことが出来る。そのように、松本さんは意図的に考え実行し、素晴らしい作品をたくさん発表した。謎解きだけであつた探偵小説が推理小説に変わった。犯罪を犯す人間の立場をしつかり書くことで、わざとらしい探偵小説を社会的、人間

的なドラマに変えた。これが清張さんの遺した一番大きな功績だつた。

最後に一番申し上げたいことは、清張さんはつねに庶民の味方でした。清張さんの小説が面白いのも、そのことと関わりがあると思います。清張さんは決して生活が豊かでない普通の庶民、庶民が一日働いて帰ってきて、わずかな時間、むさぼるように本を読むということがどういふことなのか、身に沁みてよく知つていらしたから、必ず読んだ人が喜ぶようなお土産を用意していた。清張さんはそれに徹して書いた人だつたと思います。

同じ時代に、清張さんに匹敵する、東西の横綱であつた人。少なくとも大関であつたような作家の方々は、文化勲章や文化功労者など、公の表彰を受けておられます。清張さんは頑なにそういうものを拒否されました。清張さんの一貫した姿勢に、私は感動しました。ただ、清張さんの志を知つて、そのときは多くの人が「清張さん、偉いな」と思つてくれる。でも十年も経つと、あの人は文化功労者になつた人、こっちはならなかつた人、ということになる。清張さんはそれを知りつつ、貫いた人だつた。であればこそ、公を拒否して徹底的に庶民の味方であつた清張さんのことを、十年、十五年、二十年経つても、われら庶民は忘れてはいけなかつたと思うのです。これは非常に大切なことで、今日は小倉の記念館が開館して十周年だそうですが、ここで気持ちを新たにそのことを、小倉の方々も、清張ファンもしつかり心に留めておいていただきたいと思ひます。

松本清張記念館

第10回 研究奨励事業奨励金贈呈式

平成20年8月4日に第10回研究奨励事業奨励金贈呈式が行われました。今回は清張の幅広い活動に対して、文学研究、古代史研究、人物研究など12点の応募があり、次のとおり入選者が決まりました。

企画名 動機と時空という視座からみた清張推理小説の社会性

入選者 和田 稜三
(立命館大学非常勤講師)

奨励金 40万円



企画名 清張文学と旅 — 作品の舞台と人の研究 —

入選者 共同研究／代表 大川 力
(松本清張研究会会員)

奨励金 30万円

第11回 松本清張研究奨励事業募集

募集要項

- 対象** ①松本清張の作品や人物を研究する活動
②松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人または団体も可。
- 内容** 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。
- 応募方法** 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的にわかる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成21年3月31日までに応募してください。

※詳しくは記念館までお問い合わせください。



2009年

編集・発行
松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093(582)2761
FAX 093(562)2303
http://www.kid.ne.jp/seicho
制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉からは100円バスをご利用いただく便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

入館者 90万人達成

平成20年10月7日、記念館の入館者が90万人を突破しました。90万人目となったのは埼玉県川口市の高橋勇治さんで、仕事合間の休日を利用して来館されました。90万人目となったこと大変びっくりされ、とても喜んでおられました。次は入館者100万人ですが、清張生誕100年の2009年に達成されることを期待したいと思います。



当館の学芸担当 中川主任が講師を務める

平成20年8月29日、北九州市民カレッジ「松本清張の描く北九州」で中川学芸担当主任が「『時間の習俗』—ミステリーの旅」と題して講義を行いました。受講生はみんな熱心に耳を傾けていました。



●編集後記●

いよいよ2009年、清張生誕100年の幕開けです。特別企画展、全国巡回展、講演会などいろいろな事業が目白押しです。多くの皆様に足を運んでいただき、大いに盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。(旋 政幸)

